

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立中友小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒836-0025
大牟田市中友町1-20

E-mail : nakatomo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 82名 女子 64名 合計 148名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（福祉教育）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1年 「友だちや身近な人たちと仲良くなろう」

学級のみんなや、2年生、6年生などの学校の友だちと仲良くなり、学校の先生達と進んで関わるができるようにするという目的で行った。まずは、学級の子ども達と自己紹介ゲームを行い、お互いの名前や好きなものを交流し、じゃんけん列車などのゲームを行った。次に、2年生となかよし交流会を行った。なかよし交流会では、2年生のペアと名刺交換ゲームをし、だるまさんが転んだなどのゲームを行った。6年生とは、歓迎遠足でペアを組み、一緒に遊んだりお弁当を食べたりした。また、学校探検で、職員室、事務室、給食室にいる先生にあいさつをし、握手をする活動も行った。この活動を通して、子ども達は学校に慣れ、主体的に相手に関わろうとすることができるようになった。

2年 「おもちゃ大会をひらこう」

この学習では、おもちゃで1年生が楽しく遊んでくれるように、工夫して手作りおもちゃを作る活動をした。まずは、グループごとにおもちゃを作り自分たちが遊ぶ活動を行った。次にどのように工夫したら1年生がもっと楽しめるのかを考えさせ、改良し、遊び方が伝わるように説明の練習をした。おもちゃ大会当日は、1年生にやさしく教えることができ、積極的に関わることができた。

3年 「保育園の子どもとふれあおう」

この学習では、保育園の子どもたちに喜んでもらうために、自分の課題を見つけさせ、解決の方法を考えさせることをねらいとした。そのために、どんな交流会にしたらよいか、どんな準備が必要か、どんな遊びがよいか話し合い、グループごとに準備を進めた。子どもたちは、「保育園児でも分かる簡単なゲームにしよう」「ビックブックを読みきかせたらどうか」「手作りのプレゼントを渡したい」と保育園の子どもたちのことを考えながら内容を考えることができた。この活動を通して、相手意識、目的意識を持った主体的な活動を行うことができた。

4年 「大牟田・中友PR！キッズまんじゅうを作ろう」

この学習では、大牟田市の名物であり、中友校区にも深い関わりのある饅頭について調べる活動を行った。地域のお菓子屋さんに見学に行ったり、大牟田の名菓である「かすてら饅頭」を作ったりと、実際に体験しながら饅頭について学んでいった。そして、調べて学んだことを生かし、オリジナルの「キッズまんじゅう」を考える中で、地域の良さや受け継がれてきた伝統を大切にしなければならないという思いを深めることにつながっていた。

「お菓子屋さんでのまんじゅう作り」



5年 「子ども民生委員活動」 (福祉教育)

総合的な学習の時間において、民生委員に関わる活動の一部を教材として取り入れ、次のような学習活動を通して、児童が主体的に関わる学習を展開している。

① 「つかむ」段階

地域の民生委員の仕事や役割について話を聞いたり、一人暮らしのお年寄り宅訪問を体験したりして、活動の見通しや課題を持つ。

○民生委員さんの話を聞き、活動の意義や自分たちへの願いを知る。

○子ども民生委員の委嘱状をいただく。

○地域の高齢者を訪問し、子ども民生委員の名刺を配布する。(5月)

② 「調べる」段階

高齢者の体や暮らしについて調べ、お年寄りの大切さについて考えたり、交流を通して自分たちにできることを考えたりする。

○「絵本教室」で認知症について学習する。

○地域の高齢者を訪問し、運動会の招待状を配布する。(9月)

○徘徊模擬訓練に参加し、認知症などで徘徊している人への接し方を体験する。

③ 「まとめる」段階

地域や身近な高齢者に対して今後どのように接していくのかを考え、これまでの学習についてまとめる。

6年 「高齢者福祉について考えよう」 (福祉教育)

<活動1>疑似体験活動をしよう。

お年寄りの歩行の困難さを体感するために、膝にバンドをつけて屈伸の抵抗を大きくしたり錘を装着して階段を上り下りしたり歩行したりした。子どもたちは、「足が重い!」「階段をれない!」と、歩行の困難さを実感する感想があた。次に、お年寄りが罹りやすい白内障などの視力障害を体験するために特殊な眼鏡をかけ、細かな物を箸で掴んだり、教室の中を歩いたりした。「上手に物が掴めない。」「見えにくくて机にぶつかってしまう。」などの感想が出された。

<活動2>中友校区敬老会参加しよう。

中友校区に住むお年寄りをお招きして開かれる敬老会に参加し、和太鼓の演奏を行った。楽譜のリズムを声に出して読んだり、新聞紙で太鼓のバチを作り机を太鼓に見立てて叩いたり、お年寄りに喜んでもらうために熱心に練習に取り組むことができた。

<活動3>お年寄りが罹りやすい病気について調べよう。

インターネットや図書資料・インタビューなどの活動を通して、お年寄りが罹りやすい病気について調べる活動を行った。

子ども達は、「脳梗塞」「神経痛」「老人性痴呆症」などの病気について、原因や特徴を詳しく調べることができた。



(中友校区敬老会での発表)

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()